

【ISS】豊島区富士見台小 ISS 交流会を開催

7月3日、豊島区立富士見台小学校において、第3回セーフスクール交流会が開催されました。全校児童が集まるなか、ISS 推進のスローガン「安全守ろう 富士見台 世界に広げる安心の輪」が公表されました。

続いて、各委員長が委員会活動として行える安全向上のための取り組みについて報告しました。続いて、マスコットキャラクターが紹介されました。また、低学年の児童が地域の安全について調べたことをクイズ形式



で質問し、全校児童がそれにこたえるなど、学んだことを全校で共有しました。今回は、富士見台小学校と協働して取り組みを進めている地域の方の代表も招待されており、子どもたちによる安全クイズに「地域の危険などは、住民も知らないことだから、地域でもやってもらいたいなあ」と言っておられました。これからの地域との連携が期待されます。

【ISS】北本市宮内中生徒 ISS ワークショップ

7月4日、11日と北本市立宮内中学校にお伺いしました。4日は、先生方とISCについて交流を行いました。学校においてどのような取り組みをされているのか、お話をお伺いしました。また、セーフコミュニティ(SC)ご担当者から、SC 対策委員会と宮内中学校との協働で進めている取り組みについてご紹介いただきました。北本市では、SC 対策委員会がISS 活動と積極的につながろうとしています。また、中学校側も地域との連携を積極的に取り入れていますので、お互いがよい刺激となって協働関係が形成されているようです。

また、11日は、生徒会やクラブ活動のリーダーによるワークショップでした。生徒会では、すでに自分たちでいろいろと進め方について検討をすませており、ワークショップも生徒会が中心となって主体的に運営しました。そのため、JISC は、先生方や北本市 SC ご担当、教育委員会 ISS ご担当のみなさんと作業テーブルを回りながら様子を見ている状況でした。生徒たちの主体的な進め方、そして SC 対策委員会の活動



等を通じた地域との連携の可能性に、中学校ならではのISSの在り方を期待しています。

【秩父市】SC 検討委員会(担当課長会議)

7月7日、秩父市においてセーフコミュニティ検討委員会(担当課長会議)が開催されました。

まず、JISC からプレ審査でのチョ先生及びパイ先生からいただいたコメントについて解説をさせていただきました。そのうえで、これから本番(現地審査)に向けての注意事項、検討事項についてご説明しました。その後、SC を担当されている危機管理課とお打合せをし、今後の対策委員会の進め方やスケジュールについて協議を行いました。また、ISS に取り組む3校(2小学校、1中学校)の今後の調整についても短時間ではありましたが、協議しました。

最後に、市長に面談し、5月の専門家による視察の成果についてご説明

するとともに、今後の進め方に関するご提案をさせていただきました。限られた時間



ではありますが、5月の専門家による視察の結果を効果的に関係者や組織にフィードバックするよい機会となりました。

【ISS】北本市中丸小学校児童との懇談会

7月11日、北本市中丸小学校において、児童の代表との懇談会を行いました。まず、校長先生が簡単にこれまでの経緯や現在進めている活動等についてご説明くださいました。

そのあと、児童代表のみなさんと会いました。子どもたちは少々緊張しているようでしたが、しっかりとこれまでの活動を報告してくれました。報告の後は、質疑応答ということで、日々の活動のなかで生じたISS 活動に関する質問に JISC



(白石)が答える形式で進みました。

「質問がある人！」と教育委員会のISSご担

当である和泉さんが声をかけると「はいっ！」と次々と手をあげ、他の学校や外国でどのような活動をしているのか、自分の所属する委員会ではどんな活動が可能なのか、など質問が次々と出ました。自分たちで、課題を見つけ、対策を考える段階になると、活動も楽しくなってきます。次回、取り組みについて報告いただくことを楽しみにしています。

【JISC】亀岡市学校保健会研修会で

ISS についてお話をしました

7月14日、亀岡市内の小中学校の養護教員及び保健主事の先生方を対象に「子どもの安全な生活環境づくり～セーフスクールの取り組みを参考にして～」というタイトルでお話しをする機会をいただきました。

今回お集まりの先生方というのは、ISS において大きな役割を担う方たちです。亀岡市では曾我部小学校が ISS に取り組んでいるだけですが、他の学校も ISS モデルを導入することで子供たちのけがが減り、先生方の安全管理や安全教育の負担が減ることを期待して、ISS を通した安全向上の進め方についてお話させていただきました。

当日は、教育長も ISS にご関心をもってくださり、ご挨拶の後に残って最後までお話をきいてくださいました。

【甲賀市】推進協議会で今後のあり方提案

7月15日、甲賀市において、SC 推進協議会が開催されました。まず、報告事項として、5 月に開催された専門家による視察での講評について JISC が解説をしました。続いて、各対策委員会が、専門家からいただいたアドバイスを踏まえ、今後の取り組みについて重点課題と取り組みの方向性について協議した内容を説明しました。

その後、先に開催された外傷サーベイランス委員会における検討結果について、委員長から報告がありました。5 月の SC 専門家招へいの際に、各報告に対していただいたアドバイス等についてその対応方法等について検討した内容を報告しました。

【久留米市】推進協議会及び職員研修会

7月17日、久留米市において SC 推進協議会及び職員研修会が開催されました。推進協議会では、各対策委員会が現時点での取り組みの成果(活動指標、短期・中期・長期指標のうち、数値を確定できているもの)の状況が報告されました。成果の見方については、追って JISC からアドバイスをさせていただきました。指標の設定はかならずしも簡単ではありませんが、少しでも参考になれば幸いです。今年 12 月に提出予定の年間報告が期待されます。

その後は、職員を対象に認証後の SC 活動の進め方についてお話させていただきました。SC を特別なことではなく、日常業務にうまく取り組んでいただけることを期待しています。



【JISC】2014 年 全国 SC 研修会

7月18日、19日とキャンパスプラザ京都(京都市)において、全国 SC 研修会が開催されました。今回は、アメリカの SC 取り組みから学ぶべく、アラスカ外傷予防センターのエグゼクティブディレクターのマーシャ・ハウエル氏を招へいしました。

また、中国上海のワン・シュメイ氏も参加されました。



まず、18 日午前

は、新たに SC を導入された(される予定の)自治体を対象とした SC 導入に関する研修会を開催しました。すでに SC に取り組んでいる自治体からも、新たに SC 担当に着任されたご担当者や以前に SC をご担当されていた方が参加されたことから、単に JISC による説明に終わるのではなく、経験談などもご紹介いただくことができました。

午後からは、SC に取り組む、あるいは準備されている自治体ご担当者を対象とした研修会をおこないました。まず、参加者のみなさんの自己紹介と合わせて、事前に提出をお願いしていたフォーマットに基づいて、取り組み状況についてご紹介いただきました。進捗の状況はさまざまですが、それぞれのコミュニティの特徴ある環境や取り組みなどをご紹介いただくことで、お互い参考になった点も多かったとおもいます。

また、JISC からサポーター制度の説明と委嘱をおこないました。これまで日本の SC をけん引されてきた、亀岡市の山内さんと厚木市の倉持さんが、先の3月でご退職されましたが、引き続き SC にご支援いただきたく、「JISC 公認シニア(上席)サポーター」になっていただきました。お二人とも快くお引き受けくださいましたので、SC 関係者が集うこの機会に委嘱状をお渡しさせていただきました。



その後、休憩をはさみ、海外からの招へい者による講話がありました。今回は、マーシャ・ハウエルさん(アメリカのアラスカ外傷予防センター エグゼクティブディレクター)から、アメリカでの取り組みを事例にしながら、SC 活動法についてお話いただきました。

ハウエルさんは、事前に日本の自治体の SC 認証申請書をいくつか読んでおられ、その中から文章を引用しながら、SC が取り組むケガの減少の先にある「住民の QOL の向上」も視野に入れてお話くださいました。



その後、JISC 白石が、第7回アジア地域 SC 会議(2014 年 5 月開催)の「プレカンファレンス」でのレクチャーについて説明しました。正式な開会式の前に開催されたこともあり、日本の自治体からの参加者は少なかったことと、当日は日本語訳資料がなかったため、今回は、資料を日本語に訳して全内容について説明しました。

1 日目のスケジュールを終えた後は、場所を変えて懇親会を行いました。本来なら、会場に近い京都らしい場所で・・・と考えておりましたが、祇園祭の時期ということもあり、場所の確保が難しく、会場から少し離れた場所での開催となりました。交流会には、亀岡市が最初に認証された時に京都府で SC の支援をご担当されていた八田さんが駆けつけてくださったり、数年前から JISC をご支援くださっている富士通総研の保坂さんが参加されるなど、日頃はなかなか会えない全国の SC ご担当者はもちろん、組織や分野を超えた交流の場となりました。この後もいくつかのグループに分かれ、二次会、三次会へと続いたようです。



2 日目の 19 日は、今年度の研修会のテーマである「外傷サーベイランス」について、現在の取り組み状況と現在抱えている課題を各自治体からご報告いただきました。日本

においては、医療機関等における外傷関連データの収集が容易ではないので、救急搬送データを中心にデータを収集しています。とはいえ、必要な情報が網羅されているわけではないことと、用途に合わせて別途分析する必要があるため、外傷に関するデータ収集・分析が課題となっている自治体がほとんどでした。また、多忙な大学等の研究者がメンバーである場合は、日程調整が課題であるという声もありました。

続いて、5 月に SC ご専門家から高い評価をいただいた甲賀市の外傷サーベいの仕組みと活動の経緯を報告いた



だきました。甲賀市は、大学などの研究機関に所属する委員はいませんが、地元の消防署長のリーダーシップのもと、保健所、病院、警察、市行政などがそれぞれの立場から情報や意見を出しておられます。(また、JISC も委員として参画しています。) 5 月に専門家から高く評価された理由は、対策委員会や推進協議会との双方向コミュニケーションが機能している点です。甲賀市の事例をもとに、JISC からは、体裁を整えるだけではなく、地域の状況にあった仕組みを構築する必要がある旨をお伝えし、その方法として地域で実際に情報収集・分析に携わっている「実務チーム」と、大学の研究者等の

「アドバイザーチーム」とに機能を分けることを提案しました。また、研究者イコール「サーベイランス専門家」ではないので、全面的に頼るのではなく、研究者のご専門を生かせる連携を工夫するようにご提案しました。

【十和田市】審査に向けて準備中

7 月 22 日、十和田市において SC 担当者との打ち合わせを行いました。また、午後からは 8 対策部会の取り組み状況の説明会が開催され、同席しました。

まず、SC 係との打ち合わせでは、5 月の専門家による視察後の取り組みの進捗状況をご報告いただきました。また、今後の進め方について、変更点などについて協議しました。もとは 11 月初めでご希望をお伺いしていた現地審査ですが、市議選挙の関係から 12 月に変更となりそうです。

午後からは、対策部会から、取り組み状況のご報告をいただきました。各部会から、最初の認証時からの課題と取り組みの振り返りの取りまとめをご報告いただきました。その後、JSIC から 5 月に専門家からいただいていた指摘事項について、振り返りの報告内容に合わせて解説し、それに対する質疑応答が行われました。



【ISS】亀岡市曾我部小学校取り組み報告

7 月 23 日、ISS に取り組んでいる亀岡市曾我部小学校において、これまで収集してきたデータの集計結果を見せていただくとともに、取り組みの状況についてご説明いただきました。

データについては、保健室へ来室した子どものうち、けがに関するものを収集してきましたが、どのように集計すれば適切な課題が見えてくるのか、また、より効果的に活用できるのか、などについてすでに集計されていたデータをもとに一緒に検討しました。加えて、曾我部小学校では、ISS のシンボルである「あいちゃん」を活用することで、子どもたちのやる気や関心が引き出せていることや、保健室で収集したデータをみていくことで転倒が多く、かつ顔面のケガが多いのは、転倒したときに手を付けていないことが想定され、体幹を鍛える工夫が始まったことなどをご説明いただきました。

それらを踏まえ、現在取り組んでいる活動について「どうしてその活動をしているのか」を説明するには、根拠や背景を客観的に説明することが求められることから、どのような情報が活用できるのか、など情報の整理をおこないました。

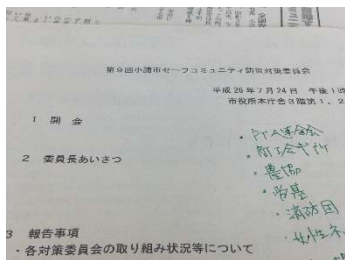
曾我部小学校の ISS 活動は、下記のウェブサイトでもご覧いただけます。

<http://www.el.city.kameoka.kyoto.jp/sogabe/program.html>

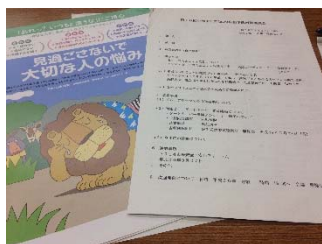


【小諸市】対策委員会、推進協議会

7月24～25日、小諸市において対策委員会と推進協議会が開催されました。まず、24日は、防災対策委員会が開催されました。現在、住民配布用の防災冊子について協議しています。近隣の自治体で発行されたものをたたき台に進め、委員からは「配布しても使ってもらえないのでは意味がない」「情報の記載の順番も大切だ」といった意見がだされました。



その後、夕刻からは、自殺対策委員会が開催されました。小諸市の自殺対策委員会は、市内の医師会や小諸高原病院の方がメンバーであるとともに、関係組織や市民の熱意ある方たちが活発に活動を進めておられます。今回は、推進協議会の委員が「対策委員会での具体的な協議や活動を知りたい」と要望され、対策委員会にも加わって質問をされるなど、新たな動きが見られました。



続く2日目(7月25日)は、まず、交通安全協議会が開催されました。SCに取り組んでいる自治体の多くが参加している小学生の自転車大会について、小諸市内小学校の参加が難しくなっている状況についてご報告がありました。自転車を正しく、安全に乗ることを体得する良い機会であるため、今後も継続して働きかける旨が協議されました。午後には、SC推進協議会を挟んで、子どもの安全対策委員会が開催されました。小諸市では、就学前児童から高校まで幅広い関係者が委員となっているなかで、世代を超えた共通課題としてメディアリタシーの向上に取り組んでいます。また、住民が市内の公園にある遊具の安全を確認した結果をもとに、遊具の安全管理について話し合いました。今回の調査で管理者が不明なもの、設置者と管理者が異なるものなど多様な管理状況が明らかになりました。委員からは、「子どもにゲームばかりせず外で遊びなさい！」という以上は、遊具の安全確保が重要だ」という意見がだされ、今後の議題として確認されました。

【箕輪町】SC 合同対策委員会を開催しました

7月29、30日、箕輪町において対策委員会が開催されました。今回は、高齢者の交通事故多発や不審者への対策など分野を超えた連携が求められる課題に対応するべく、「高齢者安全」と「交通安全」が、そして「子どもの安全」と「くらしの安全」が合同で会議を開催しました。



高齢者・交通安全合同会議では、高齢者の飲酒に関して、高齢者の意識をどう変えるか、「飲ませない」環境を作っていく大切さについて協議されました。また、「アルコール依存症などとの関係はどうか。病気であれば、本人だけでは解決できない」という意見もだされ、周囲からのアプローチの重要性も指摘されました。

また、子ども・暮らしの安全合同対策委員会では、地域の見守りについて、いかに住民の負担なく地域の「見守り体制」を充実させるか、という点について協議されました。すでに、対策委員会が取り組んでいる活動の周知方法などについて改めて話し合うとともに、JISCからは、他の自治体の取り組み事例などを紹介させていただきました。



また、これらの対策委員会の間には、外傷サーベイランス委員会が開催されました。認証から2年目を経て、これからはより本格的に取り組みの評価を進めていくことが求められることから、アンケート調査等についていかに客観的な測定が可能となるか、などについて協議が行われました。

【鹿児島市】サーベイランス委員会及び 担当打ち合わせ会議

31日、鹿児島市でサーベイランス委員会が開催されました。当日は、対策委員会の取り組みの進捗状況を報告いただき、必要なデータ等について協議するとともに10月に予定されている専門家の招聘に際して行う活動報告の内容を確認しました。例えば、対策委員会がサーベイランス委員会において情報収集に関する課題を提示したことにより、自殺に関する詳細なデータが入手できたり、消防署によって記録されている救急搬送データの記述部分をコード化し、統計的に記録してもらえるようになったことなどの成果を示されました。

加えて、委員でもあるJISCからは、現段階の課題として医療機関におけるデータ収集の難しさなどを提示することは、マイナスになるのではなく、現状を正しく理解してもらう上でも重要であることをコメントさせていただきました。



《セーフコミュニティに関する行事のお知らせ》

10月4日 横浜市栄区 「さかえ SC フォーラム」

11月4日 郡山市 SC 国際認証都市シンポジウム(仮称)

【発行】一般社団法人 日本セーフコミュニティ推進機構
※問い合わせは下記フッターの連絡先まで